

台湾との技術交流推進

Promotion of technology exchanges with Taiwan

主席研究員 野仲 典理
 水循環・まちづくりグループ 研究員 阿部 充
 企画グループ グループ長 柏木 才助
 水循環・まちづくりグループ 研究員 川戸 渉

1. はじめに

2001年11月、リバーフロント整備センター（当時）は台北市七星農田水利研究發展基金会（以下、七星基金会）と「河川水辺環境の技術協力」について合意し、以来、継続して技術者等の相互訪問などによる技術交流を重ねている。2014年は、8月上旬に日本から台湾へ、また10月上旬に台湾から日本へと相互に訪問して技術交流を行った。

2. 訪台（期間：8/4～8）

リバーフロント研究所の宮村代表理事、野仲主席研究員、及び大阪府寝屋川水系改修工営所の堀内工務課長の合計3名が、台南地域において総合治水に関する現地技術指導、並びに台中市において講習会発表を行った。

2-1 典宝溪の調節池、港尾溝溪の放水路

現場では、調節池や放水路などの総合治水対策事業箇所を視察し、日本でも同様な事業を進めており、総合治水対策では河道改修と併せて洪水を貯める、もし



写真-1 典宝溪の調節池（流入越流頂部）

くは流出を遅らせるための流域対策が重要であることを説明した。

調節池において、将来の地球温暖化対応やきめ細かな操作のためにゲート設置の有用性を指摘するとともに、調節池の管理主体は河川管理者、公園管理者、民間、地域住民など様々な主体が考えられ、それぞれ地域の特徴に応じて適切な管理主体を選択すべきであることを説明した。

ハード（施設整備）には限界があるため、ソフト（規制）での対応も重要であり、日本では1959年の伊勢湾台風により大きな高潮浸水被害を受けた名古屋市が、浸水深エリア別に1階床高を規定する建築条例を策定していること、2011年の東日本大震災による巨大津波被害を契機に「津波防災地域づくりに関する法律」を策定し、名古屋市と同様に厳しい土地利用規制をかけることが可能になったことを紹介した。

2-2 国立台湾歴史博物館の敷地内調節池

台南市にある国立台湾歴史博物館の敷地を利用した大規模な調節池を視察した。

本川への流出量について、開発後の百年確率流量を開発前の十年確率流量より小さくする規制をかけており [Q100（開発後）< Q10（開発前）]、この大胆な発想には驚かされた。日本でこのようなことを採用しようとする場合には、上下流バランスに対する住民合意や予算配分に相当の調整が必要になるであろう。

台南から台中への移動途中、台湾が日本統治下におかれていた1900年前後の時代に、台湾農業水利に大きな貢献を果たした、日本の水利技術者「八田與一」が設計した烏山頭ダム等を見学した。



写真-2 港尾溝溪の放水路（左から本川、新放水路、本川を縦断する新設堰）



写真-3 新設堰（本川下流から臨む）



写真－4 国立台湾歴史博物館の敷地内に位置する調節池

2-3 技術講習会

台中市の台湾經濟部水利署水利試験所において講習会が行われ、「日本の治水について」と題して宮村代表理事が、「日本の治水技術と総合治水について」と題して野仲主席研究員が、「寝屋川流域総合治水対策」と題して堀内工務課長が発表を行った。

また、台湾水利署の李栄富氏による「都市開発に伴う流量配分及び流出規制の推進策」の発表も行われた。

2-4 円卓会議

最終日に、台中市の水利署本省において円卓会議が行われ、一週間の視察全般の報告とりまとめを行った。

3. 訪日（期間：10/6～10）

水利署の曹総工程司以下10名の訪日団が、総合治水に関する現地調査として、巴川（静岡県）、新川（愛知県）、寝屋川（大阪府）を訪問し、意見交換を行った。

4. おわりに

これらの技術交流に際して、台湾水利署及び七星基金会、甘俊二 台湾大学名誉教授、陳英松 中興大学教授、詹明勇 義守大学副教授、台湾大学の池田正・真由美夫妻をはじめとする台湾の皆様、及び静岡県、愛知県、大阪府の皆様が大変お世話になりましたので、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後も実り多き技術交流が続くことを祈念して、結びといたします。



写真－5 巴川の大谷川放水路分流部



写真－7 寝屋川南部地下河川の若江立坑



写真－6 新川支川五条川の伝法寺調整池（左側人工地盤上を駐車場として利用）